

会報

社団法人
山形県歯科技工士会

■東北ブロック45周年福島大会開催

日時 平成15年10月18日～19日
会場 いわき市スパリゾートハワイアンズ

●日技会長賞を受賞して

庄内支部 五十嵐 勇

平成15年10月 東北ブロック福島大会に於いて、中西茂昭日本歯科技工士会会長より、日技会長賞として感謝状を頂きました。

この賞は、平成5年から6年間県技工士会会長在任中に、当時の専務理事の今野浩次氏を始めとする各役員の方々のバックアップと、会員一人ひとりのご協力があったのことで、この紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

誠に有難うございました。

当日は久しぶりのブロック大会に参加できるものと楽しみにしておりましたが、兄の急病により出席できず、なつかしい方々とお会いできなくてとても残念でした。

当時6年間、県の代議員として、日技会館に籍を置き、議事運営委員を担当しておりました。その頃から今に至るまで、歯科技工士が抱えている諸問題は、山積している事は言うまでもありません。

厚生労働省、文部科学省、日歯、中医協等々に関係した事柄はこの各部所を避けて通る訳にはいかず、相手のあることで多くの時間を必要とする訳です。

日技執行部の長年の実績と、懸命の努力は、認めるところではありますが、会長の悲願である安定した経済問題、つまり「委託技工料の位置づけ」と「現行技工士学校の4年制大学昇格問題」、この二つの事項を見てもお分かりのように、私が代議員であったずっと前から度々議論して、十数年過ぎた今も、一向に解決の兆しが見えないだけでなく、見通しすら立っていないのが現状となっております。

「大臣告示で技術料の7対3」、この件に関して、昭和63年歯科技工料に関する厚生省の告示は、良質な歯科補綴物を提供する為の公的基準として示されたものであり、考え方によっては、委託技工料の位置付けに半歩近づいたと言えるかもしれませんが、明るい見通しには至っておりません。

委託技工料の位置付けは、保険点数の中に、歯科技工技術料として点数が表現されて初めて歯科技工士の安定した経済基盤の確立、そして、技工士の社会的地位の向上と社会的

評価を得るものと考えます。

不況が続いている現在、他の業種も厳しいものがありますが、技工業界においても、最近、優秀な若い技工士の離職、転職が進んでいると言われていています。歯科技工法制定 40 周年記念大会があった平成 7 年の日技会員数は、2 万名を超えた時もありましたが、今年平成 16 年 1 月現在では、一万五千人を切るところまで減少しております。

技工士学校の 4 年制大学昇格も、技工士の社会的地位と評価を得る大切な要素と思うものの、進展しない状況となっております。

大部分の歯科医療は、社会保険医療として行われているが、その中の補綴物技術料等の評価は、あまりにも低いと言わざるを得ない。大臣告示に添った技工料とせず、激増した技工所の過当競争により、低料金の受注は、歯科技工士業界の経済的基盤を根底から揺るがしています。昭和 63 年、日技の佐野恵明執行部一同が、保険点数内の補綴物技術料、7 対 3 の確約を得たにも関わらず、日技会員自らの告示と 7 対 3 の「健全な共生」という理念を踏みにじり、業界に深刻な影響を与える結果となっております。

平成 16 年 2 月 25 日付の全国保険医新聞の記事によると、今年 4 月の医科歯科診療報酬改定が実施されるにあたり、中医協は、診療報酬本体プラスマイナスゼロ%改定となっており、基礎的技術料の大幅引き上げを図らず、歯科医療改善にはほど遠く、困難を増す歯科技工に対する評価は、今回も放置されたと批判しています。

ところで、今年は、日本歯科技工士会が過去に経験した事のない歴史的な年であります。それは、すでにご承知のように、次期参議院選の比例区代表選挙に、自民党公認として、現日技会長の中西茂昭氏が立候補することが決定していることです。これは、歯科技工士の代表を、国政の場へ送り、先に述べた諸問題の解決、特に、経済、生活の安定を図る目的の為です。日技会員、ご家族、関係団体、そして、歯科に関わるすべての人達のご協力とご支援を、又、広く市民の方々にもご支援賜るよう働きかけを、心から願います。

私達の後に続く歯科技工士の為に、中西茂昭（なかにししげあき）氏を、国会の場に立たせていただきますよう、重ねてお願いいたします。

平成 16 年 3 月 3 日

●東北ブロック長賞を受賞して

庄内支部 大綱 一也

御挨拶 去年第 45 回東北ブロック大会が福島に於いて行われ、大変盛況だったことを聞きました。

さて私事
この度、思いがけなく「平成 15 年度東北ブロック長表彰」の受賞者の一人に加えていただくことになりました。これは、私一人の力ではなく、ひとえに、県技工士会はじめ、庄内地区会員の皆様様の励ましがあればこそと、感謝で胸を熱くしている処でございます。10 月中旬頃と言えば、鳥海山も紅葉の色が、日増しに、裾野に向かって広がって参りました。

美しい時期でもあり、当日都合つかず、大変申し訳なく思っております。幸い、阿部さんが忙しい中を届けて下さいました。

こうして、今半世紀を振り返ってみると、歯科技工をして、良き友に恵まれ、55年(77歳)病気らしい病気もせず、元気でここまでこられたのは、皆様会員のおかげと思います。そして、また、其の間歯科医師会から、3回勤続賞を頂いたことも有りました。遠い昔になりますが、今思い出されて来た次第です。そんな訳で、若さ溢れるあなた方には、もっともっと学を修め、業を広めることに心血を注いでもらい、先輩達が学びきれずに残ってしまったものがある、それは何だか解らないもの、知識教養を徳とした貴兄達には解ってもらいたい。そして、あなた方の「あと」に続く若い会員と共に研修をして、歯科技工を一つの学問として、日技と一つになって完成させて下さい。私達の時代は、補綴学の中のほんの一部を作って、歯科技工を業として来ました。昭和20年代の終わり頃から30年の初めにかけて、丁度其の頃徒弟制度(丁稚小僧)の時代が終わろうとした時でもありました。それから、昭和40年代に入って、技工士学校乱立が始まり、技工士が増えて来ました。この時、「技の尚武」か、学問かと考えた。技と学の二つを修め、これからの会員には、プライドを持ってもらいたい。毎日朝から晩まで、彫刻刀を持ち働くことによって、どれほど心を磨きあげたかわかりません。あるいは、人生の価値観はこの辺に有るのではないかと、私は考える。

❁❁❁❁❁ 女子部活動 ❁❁❁❁❁

◆フラワーアレンジメント教室について

中央支部 橋本 千香子

平成15年12月20日(土)午後6時から、レストラン ブラウニーズ・ストーリーにおいて、女子部活動として、フラワーアレンジメント教室が開催されました。花等きよ子さんの知り合いの芳賀信子氏を講師に迎え、参加者は大人8名(置賜支部より1名)と子供2名でした。この日は、この冬初めての大雪が降り、遠方からの参加者は、無事来られるか、心配されましたが、遅れることなく、苦勞して来ていただき、無事全員出席でした。

クリスマスのテーブルにお花を飾ろうということで、大人は赤いバラの花5本をメインに籠に盛りました。子供は、黄色のフリーズを使い、コーヒーカップに飾りました。皆さん、それぞれの個性を生かして、大変素敵に出来上がったと思います。特に、子供の作品が上手なのには驚きました。そして、自分の作品を持って、一人一人記念撮影をしました。(インターネットで見てください)

その後、おいしいクリスマスディナーを講師の先生と一緒にいただき、話に花が咲きました。参加者に、感想を述べてもらったところ、「楽しかった」「参加してよかった」「またやりたい」と言う意見が大半で、心もお腹も満足していただけたようです。大雪にもめげず、仕事帰りの疲れた体に鞭打って参加して下さいました皆様、本当に有難うございました。

◆ フラワーアレンジメントに参加させていただいて

置賜支部 堀真 奈美

日々、歯科技工に励んでいて植物と触れ合うことが少なくなっている私には、とても心が和む一時となりました。今回はクリスマス用ということもあって、赤・緑ととても鮮やかな組み合わせで深紅のバラを中心に聞いたこともない花や葉を所狭しと生けた完成品は、思わず「キレイい」と笑みが出るほど素敵なものでした。

同じ材料でも個人個人によって雰囲気異なるということが、また面白いと思いました。目と心が癒された後は、自己紹介をしながら食事会となったのですが、花のパワーをもらった私たちは、始終笑顔で楽しい時間をすごせました。

その日は、ヒドイ雪の降る日で道路状態は非常に悪かったのですが、参加させていただいて本当に良かったと思いました。また何かの催しには是非参加したいと思っております。楽しい時間をありがとうございました。

◆ ビーズアクセサリに挑戦して

庄内支部 池田 由美

暗い雲が立ち込めた冬の海を臨む、湯の浜温泉のお宿の一室に、庄内支部女子部会員が集まり、今年はビーズアクセサリに挑戦しました。参加者は11名。挨拶や講師紹介もそこそこに作り始めました。が、ビーズは小さい！そして手のひらには汗が！みな無口になりつつ、ストラップやチェッカー型ネックレス、そしてかわいいトンボのキーホルダーを、時間を延長しつつ完成させました。少々さめてしまった昼食を食べながらみんな作品の感想に盛り上がりました。

『夢』

県技会長 赤塚 幸伸

春の季節は、三月の卒業、四月の入学で、それぞれ夢と希望を持って輝きながら、日々を送っているのではないのでしょうか。私にもそんな時期がありました。

年頭の初夢は、「一富士」「二鷹」「三茄子」と言われていますが、その一富士において、『散歩の途中に、富士山に登った人はいない。富士山に登るには、それなりの覚悟を持って登る。』と言う言葉をを耳にしました。なるほど真実ですね。富士山に登りたいですね。

ところで、私の夢は、私たちの思いを“発言する人”を“発言の場”へ送ること、そして、私たちの地位と環境を確立すること。その為には、まず行動、行動なくして夢の実現はありません。

あなたの夢は何ですか？夢の実現に向かって何をしていますか？

幸運を祈る！！